



初等部だより 1月号

鎌倉女子大学初等部
令和7年1月9日
第10号

明けましておめでとうございます

部長 目崎 淳

令和7年が始まりました。新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

子どもたちをはじめ、保護者の皆様にとって、健康で安全なよりよい一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

令和7年は巳年です。へびは、古くから日本人の身近な生き物として、神話や民話などに多く登場します。信仰の対象になっていて、神の使いであったり、龍の化身であったりするようです。また、「再生」や「繁栄」の象徴とされ、特に日本では縁起の良い存在として親しまれてきました。

「へび」を漢字で書くと「蛇」を思い浮かべる人も多いと思います。ですが、十二支では「巳」と表されます。なぜなのだろうと思ひ調べてみたところ、「巳」という字は植物に種子がではじめる時期という意味があるそうです。草木の生長が極限に達して次の生命がつけられ始める時期とあり、これを『へび』にあてたということのようです。また、「巳」を「実」にかけて「実を結ぶ」年とも言われ、縁起を担いだ掛けことばにもなっています。

さて、毎年どの学校でも、1月の学校だよりでは「今年のめあて」や「新年の目標・抱負」などの言葉が紙面にあがってきます。3学期始業式の部長のあいさつでも、これらの言葉が登場します。初等部のように3学期制の学校であれば、少なくとも年に3回は自分のことを見つめ、ふり返り、新しい目標を決める機会があるということです。そして、それに向かって努力していくことは大切なことであると考えます。それらが長

期的な目標でも、少しがんばれば達成可能なめあてでも、日々意識できるものであればなお良いと思います。3学期は、学年のまとめの時期に入ります。学習のまとめをしっかり行い、進級や進学に向けて各自がめあてや希望をもち、残りわずかとなった今年度の一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。



本日、3学期始業式を実施いたしました。式では、これまで同様に「思いやり」という話をしました。思いやりは本学が大切にしている建学の精神「感謝と奉仕に生きる人づくり」にも通じることであります。本年も建学の精神を根本とし、日々の教育活動を充実させてまいります。これまで同様、保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

昨年末よりインフルエンザの流行が始まり、初等部におきましても感染防止対策の徹底を図っていきたくと考えております。対策の徹底には保護者の皆様のご協力が不可欠であると考えます。これまで同様、登校前のお子様の健康観察(検温等)を十分に行っていただき、風邪症状(発熱、咳、喉の痛み等)等がある場合には医療機関での受診やご自宅での休養などをお願いいたします。